



読字 原田 親

No. 604

2010/4/25

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0045 東京都文京区
西新1-1-1 東洋大学ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL:086(272)-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8011
倉敷市遊馬中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:0860-446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



第82回日中文化講座

「あいうえお」はなんのため?

4月11日に高島公民館で第82回日中文化講座「二ホン語を教える人のための5カ条」が開かれ、講師経験者など35人が参加しました。

岡山大学名誉教授で日中友好協会岡山支部理事長の竹内和夫先生から日本語を教える際のポイントを聞き、参加者は日本語を教えることなどを出し合いました。

竹内先生のお話は、一、相手は何を求めているのか? 二、アイウエオは、何のために教

えるのか?

三、どんな練習をするべきか?

四、どんな単語や文が必要か? きょうは、なにを、勉強するのか?

五、二ホン語、いまとむかし、の5項目についてでした。

カラスとガラスは日本語では全く違うのですが、中国語や韓国語では濁音を区別しません。アイウエオは辞書を引くために必要ですが、五十音表は、五十ではありません。

「おとうさん」と書いて発音は「オトオサン」なのに、「おおきい」は表記も発音も「オオキイ」で法則はありません。同じ漢字でも単語により読み方が異なります。

二ホン語を知っている人には当たり前のことが、学ぶ人には学習しなくてはならないことだと改めて意識させられるお話でした。

参加者からは、講師になってから自分の二ホン語が研ぎ澄まされてきた、自分で中国語を習つてみて年を重ねてから他言語を学ぶ困難さを実感したといった経験や、ごみの分別といった

生活に必要なことへの理解を教室で行っているなど実践について報告がありました。

講師経験者から一様に出されたのは「信頼関係が大切」ということでした。

日中友好協会を中心とした日本語教室は中国帰国者が主な生徒です。信頼関係ができてこそ会話が進み、学びに繋がります。中国帰国者問題への理解と支援の立場に立つ二ホン語教室は一般の日本語学校とは違った人間関係と喜びがあることが実感された講座でした。

林潤

書評

知っているようで知らない漢字

一海知義著

著者は、はじめに「このころで、

「人のセミプロとして、プロとアマの間に橋わたしのきることがまだあるのではないか」と執筆の動機をのべられている。複雑な漢字の歴史と実体を、例をあげてわかりやすく、具体的にお願いします。そして読者を未来につなげ、考えさせる橋わたし役を、まことにやってくれています。

第一章 うっかり読み誤りやす

い漢字では、若ものへのあたたかい思いやりが感じとれる。二ホンの常用漢字は約二千だが、音訓の合計は三千八百六十七という負担をしいられているという。ほくは国語がきらいです」で結ばれている八歳の小学生の投書に、著者は、疑問は正当なものだし、抗議の内容は正しい」と同感を示し、漢字の一点一画にこだわる常識」を、読者とともに考えようとする。そして、二ホンの活字ははつきりいつてまちがっていることずばりいつておられる(二九三ページ)。

第二章 同じ意味でもちがう漢字では、本字と異体字と俗字と略字と誤字と「あて字」、しかも正しいあて字」とはなにか、まあいろいろあること。漢字で書かれた日本語は全部あて字だ、ともいえます」という(一五一ページ)。

第三章 漢字から仮名が生まれるまで」では、漢字の歴史についてふれ、第一章で「漢字の成り立ちについては、定説はないのだ」ということを、いつも忘れないでおく必要があります。(六六ページ)と警告し、ここでも「ある漢字がどのようにしてできたかについて……推理を競いあうしか仕方がない」(一九二ページ)、いろいろな説があつて、この説が絶対に正しい、とはなかなかいえない(二二四ページ)ときわめて

学問的である。ただし不可知論ではない。

第四章 あなたは漢字の変化についていけるか」は、読者を未来へみちびく光のようにかがやいてみえる。「ここまで読みすすんでくると、中国と二ホンの漢字は「同文」などではないことがわかるが、簡体字の三原則(十画以内で、大胆に、過去を活かす)にいたって、ことばと文字のありかたについて考えさせられることになる。最後に著者は、漢字は……将来いつかはなくなるだろう、使用されなくなるだろう、と考えています」(三三八ページ)という。全体をとおして読者が著者とともに頭をなやますことになれば、橋わたしは成功。四ページの索引は、もつとふやしてほしかった。

(一九九五年講談社「文庫」八百四十円)

元岡山大学教授・竹内和夫 (1996年6月25日号) 『日中友好新聞』より転載)



左から馬さん、何さん、張さん、前が貝吹理事

お茶会で一服!

四月四日(日)、日中岡山支部小林事務局長宅で、恒例のお茶会が開かれました。今回は何さんの博士論文合格を祝して、小林愛子さんの指導のもと、和やかな雰囲気の中で一日楽しく過ごしました。

新刊紹介 竹内和夫

矯学真、姜波(二夫妻の新しい本が2冊出版されました。お二人とも元ハルビン工業大学教授で、日中友好のために力を借していたのであります。

ご承知のように、去年10月3日に姜波先生は「さんかく岡山」で文豪郭沫若の妻・佐藤富子の生涯」について講演をいただきました。

中国語の世界」

90ページの入門教科書、CDつき

現代中国の社会とくらし』

164ページ

¥2,000+税

大学教育出版kk発行
〒700-0953
岡山市南区西町855-4

日中友好協会倉敷支部 第2回中国文化講座 司馬遷の生涯その2

日中倉敷支部支部長 大森久雄

三

10年後、李陵事件が起きる。遷の生涯の一大事件である。遷の生涯の一大事件である。

前99年、李陵が歩兵隊をひきいて匈奴偵察に出動した。それが匈奴の単于(ぜんう)本陣隊八万とぶつかり激戦になった。

5千の李陵軍は匈奴騎兵隊一万を倒しながら、壊滅し、陵は匈奴に降った。

もともとは、武帝の李夫人の兄、李広利に手柄を立てさせるための遠征であった。漢の本隊三万の騎兵は匈奴一万を倒し

ない。李広利をおとしめ、李陵を弁護するものとみなされ、死罪に処せられた。家は貧しく、死を逃れる大金は用意できない。宮刑を受ける以外にない。男性の生殖器を切り取られる刑罰である。士大夫にとり、これ以上の屈辱はない。遷は生き恥をさらした。史記完成のためである。

四

その後、遷は中書令に取り立てられる。皇帝のそばで上奏文の取り継などを担当する高官である。官職には興味はない。遷は夜々として「中島敦 李陵」史記を書き続ける。

前91年、遷55歳のころ、史記は完成したようだ。報任少卿書も残る。前85年、遷は60歳で没したらしい。 つづく

倉敷日本語教室

日帰り旅行 後楽園・神戸へ



神戸 異人館の坂道で

2006年に始まった倉敷日本語教室も4年近くなりました。途中で入れ替わりがあったりしましたが、いまは5人の教師と8人の帰国者が勉強しています。仕事や職業訓練所、学業などの関係で一堂に集まるのは難しいので、水曜日、木曜日、土曜日、都合のいい時間にマンツーマン方式でやっています。

そのため全員が集まって交流する機会がないので、日帰り旅行でもしましょう。と言っているのですが、なかなか実現できないので、木曜日教室の鴨井さんと湯口さんと私たち教師だけで出かけることにしました。2月25日、校外学習ということ、生徒2人と教師2人で後楽園の梅を見に行きました。

3月31日は青春切符で神戸

守大助君(北陵クリニック事件)の

学習会に参加して

梶尾玲子



国民救援会 北陵クリニック事件の学習会

会を終え帰宅した私はすぐに大助君にペンを執りました。大助君の無実を信じ、また、真実を知りたいと集まる学習会に

御両親が千五百キロの道程を参加してくださった事、弁護団の提出する事実になぜ? どうして? と多くの質問がだされ、いつもより多い岡山の参加者が大いに知り学び得る事ができました。私は北陵クリニック事件は無かった、はめられたのではと考えてきていました、その意を強くする事ができました。

いないを確信に停年まで職責を全うされた事を話された時はこみ上げるものがありました。こうした様子を詳しく長い長い手紙にしたためました。大助君の希望への源になるはずです。弁護団の出す指摘、証拠を科学的に正しく判断させる事(総てが東北大学の判定のみの採決にかたよっている)更に日弁連の総力をあげての支援をうける事へと進まねばならない事等を強く確信しました。足利事件の菅家利和さんは当然ながら無罪を勝ち取りましたが、時は経ちすぎ、御両親は既に亡くなっておられました。大助君にそうはさせられない。一日も早く再審を開かせ御両親の許へ取り戻す。国民救援会が今こそ力を發揮してがんばる時と強く誓い合えた素晴らしい学習会でした。

北野の異人館へ行きました。前々から鴨井さんが青春切符でどこかへ行きたいといっていたのですが、機会が無くそのまま過ぎていました。今回私の友人グループが青春切符で神戸へ行くというので便乗させてもらいました。

前もって旅行ガイド「るるるぶ」を読んで、いざ出発。

7人のグループに私たち3人を加えて10人。自己紹介をしてJRに乗り込みました。

見学予定は北野の異人館と元町の南京街。桜のちらほら咲く中をウロコの館、風見鶏の館などを見学、坂道の両側のオシャレなお店を覗いたり昼ごはんを



後楽園の梅園で

食べたりしていたら南京街へ行く時間がなくなってしまうしたが、楽しい1日でした。

グループの仲間とも話が弾んですっかり仲良くなりました。帰国者の人たちは外部の人と

仲良くなる機会が少ないので、とても良かったと思います。鴨井さんの感想 初めて会ったのに昔からの友達のように話しかけてくれてとても楽しかった。湯口さんの感想 異人館は坂道が多いので膝が心配だったが、その日は楽しく、すこしも痛くなくって本当に良かった。時々校外学習に行きましょう!

荒武俊子

次回の新聞送付作業は4月30日(金)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

吹林和 内井垣 貝小竹 竹坪三